

令和元年度（第 25 期）にいがた市民大学
「農と食で地域をプロデュース」公開講座
「農を支える市民づくり～農地を活用した再生可能エネルギーの自給～」
実施概要

【会 場】 万代市民会館 多目的ホール（新潟市中央区東万代町 9 番 1 号）

【日 時】 令和元年 8 月 21 日（木） 午後 7 時～9 時

【講 師】 新潟国際情報大学 国際学部 教授

佐々木 寛 氏

【参加者】 計 51 名

（内訳）

- ・ 講座受講生 32 名
- ・ 一般参加者 19 名

【内 容】

エネルギー及び安全の市民自治の可能性を視野に、再生可能エネルギーの自給をテーマにお話いただきました。

農業を支え、農業に支えられる市民社会の姿としてデンマークの地域熱供給（太陽光や地熱やバイオマス等を用いて生産された熱エネルギーを暖房用や給湯用として地域に供給する）の事例についてご紹介いただいた後、日本初の取り組みとして世界からも注目されている「ソーラーシェアリング」の試みについてお話いただきました。「ソーラーシェアリング」とは農地に支柱を立てて、ソーラーパネルを設置し、営農を続けながら発電を行う取組で、農業収益の向上だけでなく、収穫した作物のブランディング、利用していない土地の資産化やエネルギーコストの削減になるなど、活用が期待されています。

講義後半は講座コーディネーターである新潟大学農学部助教の伊藤亮司さんの進行のもと、質疑応答形式で進めていただき、参加者からのたくさんの質問にも一つ一つ丁寧にお答えいただきました。

